環境リーダーNews

特定非営利活動法人 神奈川県環境学習リーダー会　「会報」
ホームページ　http://npo-k-leader.net

2018 4/28
Vol.102
季刊発行　春号

特集：3 面「森への期待」
連載：8 面 部会紹介「水環境部会」

写真：第 24回市民環境活動報告会の基調講演会場

第 24 回「市民環境活動報告会」報告

実行委員長 田口繁雄

平成 30 年 3 月 3 日（土）、恒例の「市民環境活動報告会」を「かながわ県民センター」の 2 階大ホールにて開催しました。テーマは「生物多様性の生態系を守ろう」～持続可能な社会を目指して～。今回は、基調講演と 6 団体による環境活動発表、ポスターセッションの 3 部構成で開催しました。

基調講演は、「なぜ外来生物は増えるか？その防除の成否の鍵はなにか？」と題して、国立環境研究所 生態リスク評価・対策研究室の五箇公一室長による講演。外来生物に関する歴史的背景、特定外来生物防除の優先課題や法的規制などの解説の後、近年話題の「アルゼンチンアリ」の防除成功例など同研究所の研究チームが行った実績を大変興味深く視聴できました。最後に、ご専門のダニ学会でのご活躍も紹介されました。

環境活動発表は 6 テーマ、①「植物ジュニアレンジャー養成講座」、②「洋光台サイエンスクラブの活動」、③「湘南里浜みどりのプロジェクト」、④「昔話に出てくる、日本人の原点の里山作り」、⑤「二つの自然観察ガイド育成講座」、⑥「家庭から環境保全活動推進」について報告されました。これらの発表者は、自分たちが継続的に実施している環境活動に自信と誇りを持って発表され、その熱意が感じられました。当会からは①と⑤を発表しました。

当会の発表者、吉岡理事と品川理事

ホスターセッションは、「藤沢市市民環境活動」、「相模川定点的水質調査」、「洋光台緑地トンボ池」、「植物ジュニアレンジャー」の 4 件を中心に展示閲覧を行い、出席者と出展者との意見交換を行いました。今回の報告会への出席者は 88 名と盛況裏に終えることができました。

総会のご案内

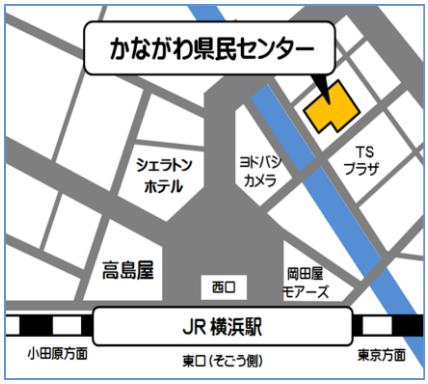
事務局　桑原　清

平成三十年度の総会を左記の要領にて開催いたします。今回は総会に先立って特別講演を行います。総会終了後には懇親会を行う予定です。

会員の皆様へはメール便にて「総会資料」をお届けします。ご出席をお願いします。

■月日・五月二十六日（土）
■場所・かながわ県民センター
　一五〇二会議室（開場四時十五分）
■特別講演・午後四時三十分～五時十五分
　講師・当会理事　品川高儀様
　演題・「クイズで学ぶ森の不思議」
■総会・午後五時三十分～七時
■懇親会・午後七時十分～八時三十分

■総会会場



●当会の会員数（2018 年 4 月 1 日現在）　正会員：75 名、賛助会員：5 名、合計：80 名

神奈川県立青少年センター・科学体験活動推進協議会

子どもサイエンスフェスティバル

●相模原大会
●海老名大会
●秦野大会

「パスカルの原理」パワー実感

自分の呼気の力で、自分を持ち上げた、更に、子どもがお父さん持ち上げに成功

相模原大会　1月13日（土）　会員　荒谷輝正

「青少年のための科学の祭典」相模原大会は、相模原青少年学習センターで開催されました。この大会の主旨は、実験や科学工作などで科学の不思議や楽しさを気軽に体験できることを目的にした「科学のお祭り」で、小学生から大人まで楽しめる大会です。当会からは「挑戦！パワー全開！ 君は自分で自分の体を持ち上げることができるか」を出展しました。このブースには昨年の２倍を超える約 200 組の親子連れの方々が訪れ、大変盛況でした。自分の吐息で自身を持ち上げることは勿論、子どもがお父さんやお母さんを持ち上げることに挑戦し、「パスカルの原理」の応用例を体験してもらいました。体重 80kg のお父さんは自分の子どもが「親を持ち上げることは絶対に出来ないよ」と言っていましたが、持ち上がり驚きました。そこで、掲示ポスターで「パスカルの原理」を説明して理解していただきました。これを機会に科学好きの子どもが増えることを心から願いました。

水を手でつかみ取る実験

化学反応で不思議な「水」作りに挑戦

海老名大会　２月３日（土）　水環境部会　大岩俊雄

海老名市立「えびな市民活動センタービレッジ」で開催された海老名大会に、当会から「水をつかもう」を出展しました。この体験ブースでは、アルギン酸ナトリウムと乳酸カルシウムの化学反応によりゲル化した水玉を作って手でつかみ取る実験を行うものです。実験では水玉を手にプヨプヨした感触を体験しました。当日は好天に恵まれたこともあり、多くの来場者があり当会のブースにも長い行列ができ、低学年の小学生を中心とする 150 組を超える子どもと保護者の来訪がありました。前日の TV 放送で同様の「水をつかむ」実験が放映されたこともあったためでしょうか大変盛況でした。実験内容の説明や体験指導のために会員５名は大忙しで終日対応しました。

空力翼艇を作って滑空実験

スタッフの指導で親子が仲良く工作

秦野大会　２月17日（土）　廃棄物部会長　石井 榮

昨年度に引き続き秦野大会に「空力翼艇」を出展しました。今年度は、多くの子どもたちに滑空実験を十分に体験してもらうことを主眼に、キャビンの製作と取り付け、原理の説明などを少なくした結果、大人も含めて 170 名を超える方に滑空に挑戦してもらうことができました。午前中は、参加者の多さに圧倒され、急遽材料などの追加入手に走るなど嬉しい悲鳴でした。午後も大変だなと腹を括っていたのですが、案に反して午後はガラガラで拍子抜けの状態でしたので、他の出展団体のブースの方などにも滑空実験に挑戦していただきました。主催者からいただいたアンケートの結果では殆どすべての方から楽しかったとのコメントをいただき安堵しました。

Leader's TOPICS

森への期待

NPO法人 かながわ環境カウンセラー協議会
NPO法人 全国森林インストラクター神奈川会
一般社団法人 日本森林インストラクター協会
理事　自然環境部会　品川高儀

全国森林インストラクター神奈川会は、設立時には100 名の会員と会費収入だけの厳しい財政状況でしたが、幸いにも第 61 回全国植樹祭のプレイベントに応募して指名を受けることができました。これを契機にかながわジュニア・フォレスター教室や県立四季の森公園における自然観察会、神奈川の身近な自然を訪れる一般観察会など、森林保全活動、小学校への出前授業などさまざまな活動を続けています。県立四季の森公園では、自然観察会ガイドをしながら新人会員の技量向上を図る活動も取り入れ、現在では、会員数 164 名が豊かな自然に恵まれた神奈川県の特性を活かして様々な活動に取り組んでいます。

現在でもイベントの企画や依頼があると、①毎月１回の月例会に諮り、理事会で承認を得た後、会員へネットを使ってスタッフを公募、②実力のあるスタッフがリハーサルをし、書面で解説して新しいプログラムとスキルアップを行って本番に臨み、③森の面白さと楽しさを伝えています。本物を五感で観察させています。

また、環境活動による社会貢献をするための具体的な方策として、次の項目があります。①新学習指導要領などの教育計画との整合性を確保することが求められます。「学習のねらい」はいつも考え方を整理して、説明できるようにし、②「生きる力を育む」（基礎的・基本的な知識や技能の習得、思考力・判断力・表現力の育成）が新学習指導要領における一番の大きな理念です。③子どもに鋸、剪定バサミ、ナイフ、包丁の使い方の他、たき火や炭火の熾し方、ご飯作りを体験させます。ここで学べば次の大地震が来た時にも鍋や火を上手に使って生き延びることができると考え、小学３、４年生にキャンプ体験をさせています。防災教育の大切さを理解下さい。④このために三点セット（活動のしおり、安全計画書、進行シナリオ）が重要で、安全計画書は必ず事前に現場を歩いてチェックし、対策を講じています。⑤子どもは 10 年経つと大学生になり、自然体験教室においても次の世代の指導ができ、大人から子どもへと自然体験活動のバトンをつなぐことができます。これが力になり、さらにはこの力が文化になると信じています。

横浜市青葉区「青葉エコ・スクール」

グリーン部会長　柳川三郎

エコ・スクールを楽しむ子どもたち

１月 30 日（火）、美しが丘西小学校放課後キッズクラブにて「人工の雲を作ろう」を行いました。エコ・テーマは、水が自然界で循環していること、水を汚さない、水を大切にすること。この説明の後、子どもたちが持参したペットボトルの中に「雲を作る実験」と「つかめる水の実験」を行いました。参加した生徒は小学校 1～4 年生 40 名、８割が 1～2 年生、当会から７名の講師が担当しました。子どもたちは、自然界の「雲」を手元のペットボトルにできたことに感激。「水をつかむ」実験では、化学反応で水の玉を作り、柔らかい水玉を手のひらに乗せ、不思議な触感を体験しました。参観した保護者もこれら実験の不思議さに感激した様子でした。

「よこはま夢ファンド」による当会支援へのお願い

代表理事　田口繁雄

「よこはま夢ファンド」の助成金は、当会の環境保全活動（市民環境活動報告会へ交付）などに大いに貢献しております。つきましては、当会指名による「よこはま夢ファンド」への寄附にご協力をお願いします。「よこはま夢ファンド」へ寄附者すると、ふるさと納税制度による税の優遇措置が受けられます。

詳しくはこちら http://www.city.yokohama.lg.jp/shimin/tishin/shiminkatsudou/fund/

はまぎん こども宇宙科学館・洋光台サイエンスクラブ

平成29～30年度 環境体験教室

実行委員　小林信雄、田口繁雄

平成 29 年度の環境体験教室は、今回報告の 5 教室をもって全 38 教室を無事終了しました。続いて同 30 年度は、洋光台サイエンスクラブの 37 教室【右下表】が開始され、「夏休み工作教室」も計画が進められております。

平成 29 年度 5 教室の報告

平成 30 年 1 月から 3 月に開催された 5 教室について授業成果の概要をご報告します。

❶「見えない空気を調べてみよう」では、空気の成分や性質を学んだ後、自動車排ガスの pH パックテストや二酸化炭素が水に溶ける実験などを行いました。

❷「植物のタネの不思議を調べよう」では、隣接公園でコブシやソメイヨシノの冬芽を観察し、冬越えの知恵を学習しました。オニグルミの冬芽もスケッチしました。

❸「ルーペ式顕微鏡を作って“細胞”を見てみよう」では、顕微鏡の原理を学んだ後、工作した顕微鏡でタマネギの細胞を観察して、詳しくスケッチしました。

❹「サトウキビをかじり、世界の今を知ろう」では、砂糖の作り方の話の後、沖縄から取り寄せたサトウキビをナイフで皮をむき、かじって、甘さを確かめました。

❺「手作り石けんを楽しもう」は、保護者も一緒に石けん作り参加して、たくさん作って持ち帰りました。

年間開催教室数は 38 教室、出席生徒数 689 名、講師陣は延べ 271 名でした。科学館の教室ご担当の方々、当会の講師の方々へ厚くお礼申し上げます。

①

②

③

④

⑤

会員の皆様、教室開催の回数が増加しております、スタッフ参加にご協力をお願いします。

平成 30 年度 洋光台サイエンスクラブ教室 一覧表

No	月	日	曜	教　室　題　名
1	4	7	土	海藻おしばを作ろう
2	4	14	土	目ざせ植物ジュニアレンジャー（1） 身近な春の植物たち
3	4	21	土	太陽の光で風車を回そう
4	5	12	土	みどりのカーテンを作ろう（親子教室）
5	5	13	日	めざせ植物ジュニアレンジャー（2） 春と夏の生態系って何？
6	5	19	土	紫キャベツで色が変わる水マジック
7	5	20	日	和泉川・地蔵原の水辺で生き物観察会
8	6	2	土	木の二酸化炭素吸収を調べよう
9	6	9	土	身近なもので電池を作ろう
10	6	10	日	化学の不思議！「つかめる水」を作ろう
11	6	16	土	テコの実験でパワーを学ぶ
12	6	17	日	めざせ植物ジュニアレンジャー（3） 植物の歴史を探そう
13	6	23	土	手作り顕微鏡でミクロの世界をのぞいてみよう（花粉編）
14	6	30	土	大豆もやしを育てよう
15	7	1	日	見えない空気を調べる化学実験
16	7	7	土	めざせ植物ジュニアレンジャー（4） 生きものの競争を調べよう
17	7	8	日	大豆はスゴイ！大豆を育てよう（親子教室）
18	7	14	土	「八重のかざぐるま」を作ろう
19	7	21	土	めざせ植物ジュニアレンジャー（5） 植物ジュニアレンジャー実技講座
20	9	1	土	植物ジュニアレンジャー活動（1） 日本の植物たちはどこ？
21	9	8	土	水飲み鳥を作ろう
22	9	15	土	植物ジュニアレンジャー活動（2） 外来種は、ほんとにわるい？
23	9	9	日	人工の雲を作ろう
24	9	29	土	植物ジュニアレンジャー活動（3） 温暖化が進むとどうなるか？
25	10	13	土	ソーラーオルゴールを作ろう
26	10	20	土	植物ジュニアレンジャー活動（4） 里山の植物と人のつながり
27	10	27	土	伝統工芸の「紙すき」を体験してみよう
28	11	10	土	手作り顕微鏡でミクロの世界をのぞいてみよう（気孔編）
29	11	17	土	どんぐりを育てよう（親子教室）
30	12	2	日	環境にやさしい入浴剤を作ろう
31	12	8	土	種グライダーで生き物の不思議を学ぼう
32	1	19	土	水のかたさを調べる化学実験
33	1	26	土	ふしぎな、不思議な種の世界
34	2	2	土	手作り顕微鏡でミクロの世界をのぞいてみよう（細胞編）
35	2	9	土	サトウキビをかじり、世界の今を知ろう
36	2	16	土	ヨウ素デンプン反応で食べ物を調べてみよう
37	2	23	土	手作り石けんを楽しもう

御所見小学校にて「手作り顕微鏡」

廃棄物部会長　石井 榮

神奈川県立産業技術総合研究所の「なるほど！体験出前教室」の一環として、1月15・16日（火）の2日間、藤沢市立御所見小学校において、5年生 90 名の児童に対し、手作り顕微鏡の製作と植物の細胞や気孔を観察しました。今回は、鏡筒やレンズホルダー取り付け部を既製のものを組み合わせて使用したことや、レンズホルダーそのものにも改良を加えた結果、製作に個人差が少なくなり、また時間も短縮でき、更に、画像を固定できるためスケッチも容易になりました。観察したものは、玉ねぎやムラサキゴテンの細胞や気孔でしたが、スケッチを相当詳しく描く児童がおり意を強くしました。

講師の指導を受けながら顕微鏡作りに挑戦

養護学校にて「環境ってな～に？」

廃棄物部会長　石井 榮

2月14日（木）Y市立養護学校において、「環境・エネルギー学校派遣授業」の一環として、「環境ってな～に？自然の不思議大発見」授業を実施しました。今年度も、7つのブースを設けて事前に工作した模型などを展示。実演や観察しながら出来るだけ自分の五感や体を使うなどして、自然環境の仕組みや働きなどの驚くべき知恵と工夫、そして不思議さを実感してもらいました。特に空気砲やベンハムのコマは独自の工夫を凝らしたもの、動物地球儀では地球上の各地域に生息する固有動物や絶滅に瀕している動物の鳴き声を聞くなど、手足を動かしてスポーツを体験することにも挑戦してもらいました。

講師と一緒に環境ゲームを楽しむ

本郷台小学校にて「ケナフの紙すき」

自然環境部会　三田重雄

雪の残る1月24日（水）に横浜市立本郷台小学校3年生1クラスで、昨年11月に続き2度目の紙すきを行いました。子どもたちは、自分たちで育てたケナフの皮から手慣れた手つきでパルプを作り、ハガキ作りを楽しみました。各自2枚を27人全員に、与えられた時間に何とかすくことが出来て良かったです。最後に荒谷講師から「ケナフから紙を作るという体験が良い思い出になれば嬉しいです」と、感想を伝えて終わりました。作ったハガキを誰に届けるか楽しみです。

この紙すき教室の特徴は、素材がケナフであること、ケナフの栽培も含め、当会オリジナルの伝統工芸教室です。

紙すきでハガキを作り、赤スタンプを押して完成

厚木市役所にて「大切なエネルギー」

エネルギー部会長　鈴木勝男

1月27日（土）、厚木市役所にて、同市が育成しているジュニアエコリーダー向けに出前講座を実施しました。テーマは「大切なエネルギー」、ジュニアエコリーダー4名（5年生3名、6年生1名）が受講しました。

講座内容は、地球温暖化と省エネの講義、電気機器の消費電力測定など3つの省エネ実験、水素燃料電池自動車など3つの新エネルギー実験、更に、ゲームで考える身近な省エネ、2時間のぎっしり詰まった講座でしたが、全員が楽しそうに学習しました。ジュニアエコリーダーの皆さんには、本講座で学んだことを周囲の子どもたちに幅広く伝えてくれることを期待しています。

手回し発電機で電球の点灯エネルギーを体験

Welcome　新会員紹介　New face

子どもたちと共に成長したい

昨年 11 月に入会させていただいた金丸（かねまる）と申します。私はオフィス機器メーカーで、主に販売企画・販売教育を担当した後、環境マネジメントシステム担当および CSR*担当を経て昨夏に定年となりました。現在は季節変化をリアルタイムで感じながら、県立公園の作業員として樹木の剪定、伐採そして草刈りなどで汗を流しております。

環境学習リーダー会との出会いは、当時 CSR 活動の一環として次世代向けの科学体験プログラムを企業出展した「子どもサイエンスフェスティバル」です。会社の先輩である田口様（代表理事）にたまたま会場でお会いし、活動方針と内容をご紹介していただくうちに、自分もスタッフとして加わりたいと思うようになりました。見学させていただいたプログラムはどれも手作り感満載の楽しそうなものばかりで、知識だけではなく子どもたちの意識に働きかける仕掛けがいっぱいでした。自らの手足を動かして、実際にものごとを確かめていく時に見せてくれる瞳からは無限の可能性が伝わってきました。

当会の目的には、“各々の得意分野で率先して環境保全活動に取り組んでいます。”とありますが、残念ながら私には環境問題について特別な専門性がありません。おそらく参加される子どもたちと同じレベルでしょう。そういう意味では当会の活動に参加させていただくことが私にとって環境学習のスタートとなります。リーダーへの道程はまだまだ先ですが、「誰のため（あるいは何のため）に自然環境を保全するのか？」をいつも念頭において、子どもたちと共に学び成長していきたいと考えています。

＊CSR：Corporate Social Responsibility：企業の社会的責任

金丸勝彦さん　PROFILE

- 出身地：甲府市　・現住所：相模原市
- 生年月：1957 年8月
- 現役時：オフィス機器メーカーに勤務
- 趣味：オートキャンプ、温泉旅行、渓流釣り
- 所属部会：自然環境部会

1～3 月の新会員：斎藤 潤さん

化学物質の有害性を調べる(2)

安全管理担当　濱辺鎌吉

環境体験教室の授業を安全に行うことは大変重要であるとの認識から、安全知識シリーズを連載しています。今回はその（2）として安全を判断するプロセスとして「食塩」を例に考察します。

先日、食塩中毒で幼児が死亡する事故がありましたので、食塩の有害性を調べます。食塩の有害性情報は、先ずインターネット等を使ってデーターシート（SDS）を手に入れます。キーワードは食塩ではなく、その主成分、塩化ナトリウムです。

SDS の危険有害性欄に GHS 分類に該当しないと書かれているので、塩は有害物質として扱われていないと判断します。更に進むと有害性情報欄に、急性毒性は rat LD50 =3000mg/kg（HSDB）と書かれています。

HSDB は化学物質の毒性に焦点を当てた国際的データーバンクです。LD50 は通常、実験動物に単回経口投与し、その動物群の 50%が死亡すると予測される物質量で、検体動物の体重 1 kg 当たりの物質量で表されます。LD50 が 2,000mg を超える物質は急性毒性が低いと考えられています。しかし、死亡に至らずとも健康を損なう中毒について調べます。中毒の情報は日本中毒情報センターのホームページから得られ、塩の推定致死量は 0.5～5 g/kg、中毒症状が発現する摂取量としては 0.5～1 g/kg と記されています。

体重が 10kg 程度の幼児では 5 g 程度でも嘔吐、過呼吸等の中毒症状が発現する恐れがあり、体質や体調によっては重篤な状態になり得ることが分かります。

“新会員募集中”　会員の皆様、環境に興味があるお友達を会員にお誘いください。　新たな会員を歓迎します。

部会活動 Information（5月～7月）

■教室・イベント情報	開催月日（曜）	開催時間	開催場所	開催担当部会
■みどりのカーテンを作ろう（親子教室）	5 月 12 日（土）	10:00～12:00	はまぎんこども宇宙科学館	グリーン部会
■めざせ植物ジュニアレンジャー（2）春と夏の生態系って何？	5月 13 日（日）	10:00～12:00	はまぎんこども宇宙科学館	自然環境部会
■紫キャベツで色が変わる水マジック	5 月 19 日（土）	10:00～12:00	はまぎんこども宇宙科学館	会員
■和泉川・地蔵原の水辺で生き物観察会	5 月 19 日（日）	10:00～13:30	和泉川の水辺	水環境部会
■「八重のかざぐるま」を作ろう（かながわエコ 10 フェスタ）	5 月 27 日（日）	10:00～16:00	日本大通・横浜公園	自然環境部会
■木の二酸化炭素吸収を調べよう	6 月 2 日（土）	10:00～12:00	はまぎんこども宇宙科学館	会員
■身近なもので電池を作ろう	6 月 9 日（土）	10:00～12:00	はまぎんこども宇宙科学館	エネルギー部会
■科学の不思議！「つかめる水」を作ろう	6 月 10 日（日）	10:00～12:00	はまぎんこども宇宙科学館	グリーン部会
■テコの実験でパワーを学ぶ	6 月 16 日（土）	10:00～12:00	はまぎんこども宇宙科学館	グリーン部会
■めざせ植物ジュニアレンジャー（3）植物の歴史を探そう	6 月 17 日（日）	10:00～12:00	はまぎんこども宇宙科学館	自然環境部会
■手作り顕微鏡でミクロの世界をのぞいてみよう（花粉編）	6 月 23 日（土）	10:00～12:00	はまぎんこども宇宙科学館	廃棄物部会 自然環境部会
■大豆もやしを育てよう	6 月 30 日（日）	10:00～12:00	はまぎんこども宇宙科学館	グリーン部会
■見えない空気を調べる化学実験	7 月 1 日（日）	10:00～12:00	はまぎんこども宇宙科学館	会員
■めざせ植物ジュニアレンジャー（4）生きものの競争を調べよう	7 月 7 日（土）	10:00～12:00	はまぎんこども宇宙科学館	自然環境部会
■大豆はスゴイ！大豆を育てよう（親子教室）	7 月 8 日（日）	10:00～12:00	はまぎんこども宇宙科学館	グリーン部会
■「八重のかざぐるま」を作ろう	7 月 14 日（土）	10:00～12:00	はまぎんこども宇宙科学館	自然環境部会
■めざせ植物ジュニアレンジャー（5）植物ジュニアレンジャー実技講座	7 月 21 日（土）	10:00～12:00	はまぎんこども宇宙科学館	自然環境部会
■地域図書館 de YES 夏休み講座（計画中）	7 月 26 日（木）	10:00～11:30	横浜市・港南図書館	未定
■身近なもので電池を作ろう（計画中）	7 月 31 日（火）	10:00～12:00	環境科学センター	エネルギー部会

●定例部会情報	開催月日（曜）	開催時間	開催場所	部会長
●エネルギー部会	5 月 3 日（木） 6 月 7 日（木） 7 月 5 日（木）	（勉強会 15:00） 16:30～17:30	県民センター 705 会議室	鈴木勝男（桑原清）
●廃棄物部会 ●自然環境部会	5 月 16 日（水） 6 月 20 日（水） 7 月 18 日（水）	廃：16:00～17:30 自：18:00～19:00	県民センター10 階 ボランティアサロン	廃：石井 榮 自：吉田和史
●水環境部会 ●グリーン部会	未定	―	―	吉村美男 柳川三郎

●「子どもサイエンス部会」と「大気環境部会」は、「部会活動休止中」です。部会として休止しておりますが、教室開催やイベント開催の要望により開催することができます。 お問合せ先 Mail：npo.k.leader@gmail.com

連載 部会紹介　Club Life

[水環境部会]　部会長 吉村美男

「水」は、生命を維持するために必要不可欠なものです。この自然の恵みを未来につなぐ必要があります。水環境部会では、次世代を担う子どもたちが水環境を体験的に学ぶ教室を展開しています。地球上の水循環系をはじめ、私たちが生き続けるために必要な水の条件、水辺の生き物たちの生態系や水質などについて体験的な学習を行うことにより、子どもたちに「水」を大切にする動機付けを行っております。

具体的には、はまぎんこども宇宙科学館の環境体験教室にて毎年５月と７月に「和泉川・地蔵原の水辺で生き物観察会」を開催、子どもと保護者が一緒に川に入って生き物捕りに挑戦し、捕った生き物の観察学習を行っています。夏休みには、神奈川工科大学、神奈川ウォーターネットワークとの共同事業で「中津川生きものしらべ教室」を開催。子どもたちは、大学教授から生き物の名前や生息環境を学び、大学生からは水質検査の測定器などを使って COD、ｐH の検査を体得しながら川の環境を守ることを考えてもらっています。

今年もこれらの事業を続け、子どもたちや保護者に水辺の生き物に親しむことを通して水の大切さを体感してもらうよう展開して行きます。水環境部会では、これらの活動に興味がある方のスタッフ参加を募集しております。

講師の指導を受け、水辺で生き物捕りに挑戦する子どもたち

事務局だより　桑原 清

■ 理事会の開催予定

- 5月 10 日（木）　14 時～17 時 30 分
  県民センター705 会議室
- 6 月 14 日（木）　14 時～17 時 30 分
  県民センター705 会議室
- 7 月 12 日（木）9 時 30 分～12 時 30 分
  神奈川県環境科学センター会議室

■ 地域での理事会開催

- 理事会は毎回かながわ県民センターで開催していますが、会員の皆様からご希望があればお住いの地域での出張開催を検討します。皆様からのご提案をお待ちしています。詳しくは事務局へお問合せください。お問合せ先：npo.k.leader@gmail.com

会員募集

当会では、子どもたちへの環境体験教室など、多彩な環境啓蒙活動が年々増加しています。私たちと一緒に活動していただける方を募集しております。ホームページからご応募ください。

■編集後記■　今、SDGｓ（持続可能な開発目標）が話題です。SDGｓは、国連が 17 分野の開発目標を提唱しているもので、貧困や不平等をなくし、教育の普及や健康の増進を図り、経済成長と環境保全の両立を 2030 年の実現を掲げています。

この概要は「2018 環境白書」巻頭 30 ページを割いて解説されており、我が国は、8 分野の目標を重点的に取り組むとしています。SDGｓの中で私たちが取り組む環境教育については、ESD（持続可能な開発のための教育）が推奨されており、ESD 内容は「2016 子ども環境白書」に詳しく解説されています。

これらの「環境白書」は、SDGｓの理解に役立ちます。NET 検索などご一読が望まれます。　小林信雄

特定非営利活動法人 神奈川県環境学習リーダー会　「会報第102号」 2018年4月28日発行
■ 発行者：代表理事 田口繁雄　　編集：広報部長 小林信雄
■ 所在地：〒226-0005 横浜市緑区竹山三丁目2番地４　竹山3201－134
■ Web：http://npo-k-leader.net/　・ご連絡、お問合せ先　E-Mail：npo.k.leader@gmail.com
◆ 寄付・会費等納入口座：ゆうちょ銀行00230-4-30769　神奈川県環境学習リーダー会
★ ©不許複製：神奈川県環境学習リーダー会
ホームページ　Kリーダー会　検索

本会報は、当会ホームページにフルカラーPDF 版にて掲載しています。郵送配送版や展示版はモノクロ印刷版です。